

「未来のあたりまえを作る。」

—インドネシアにおける 40 年の歩みと社会貢献



DNP インドネシア カラワン工場

大日本印刷(株)

コーポレートコミュニケーション本部

CSR 推進室長 佐原美弥

大日本印刷（以下：DNP）は CSR を経営の基盤と考え、事業活動そのものが社会への貢献であり、DNP が提供する製品やサービスは、様々な社会課題を解決に導くものであるという前提に立っている。

DNP 本体としての CSR の原点は創業時に遡る。DNP の前身である秀英舎は、1876（明治 9）年に活版印刷業として現在の中央区銀座で創業した。そのころは日本の開国直後であって、欧米の進んだ技術や豊かな文化に憧れる一方で、新しい日本を創造するための様々な改革がなされていた時期である。そこで秀英舎は活版印刷の技術を用いて欧米の先進の学問、技術、情報などを伝えることによって、人々の知的好奇心に応え、さらには新しい日本の創造に一役を担うことを使命とした。当時の舎則に、秀英舎は「文明に資する業を営む」とあり、これは社会の発展に寄与するという志を表すもので、この考えが DNP の CSR の原点となっている。

第二次世界大戦を経て、DNP は印刷技術を応用し様々な事業分野へ展開を図ってきた。そのひとつがパッケージ分野である。内容物の情報をパッケージ表面に記載する“印刷”はもとより、パッケージそのものについて、食品や飲料・日用品などの内容物を保護し手軽に持ち運ぶという利便性だけでなく、光や熱を遮断して長時間保持するなどの機能性を向上させ、さらには使用する材料を減量化して資源の有効活用に資するなど多くの機能を付加させてきた。DNP は、世界中の人々の生活向上を願い、こうした技術屋パッケージ文化をグローバルに展開してきた。

そのひとつが大日本ギタカルヤ・プリンティング（現 DNP インドネシア）で、1972 年 2 月当社のインドネシア法人としてジャカルタ北部のパサルバルで操業を開始した。87 年には現地大手ロダマス社と合弁し、工場もジャカルタ東部のプロガドンに移転し、新たなスタートを切った。98 年のインドネシア暴動の時期には、輸出に活路を見出すなど様々な施策を講じて苦難を乗り切った。今日ではインドネシアの経済成長に合わせ大きく成長を遂げている。

グローバル企業からパートナーとして認知

DNP インドネシアは創業以来、日本の優れたパッケージ文化を現地に広めることを使命としてインドネシア経済の発展と共に歩んできた。この間、より良いパッケージを地域社会に提供することで、より安全で健康的、より快適な生活環境の実現に寄与してきた。

そして今、高度なパッケージ技術・ノウハウを活かしたコスト競争力のある高品質な製品を、インドネシアのみならず近隣の諸国にも提供している。特にバリア性などの付加価値の高い軟包装分野では高いシェアを獲得しており、今では DNP インドネシアは東南アジアを代表するパッケージメーカーとなった。また、品質だけでなく環境や人権への配慮をより重視する欧州のグローバル企業にも当社は認められ、これら企業の重要なサプライヤーとしての地位を確立している。

右ページ左上の写真はインドネシアでよく目にする屋台である。暖簾のれんのようにぶら下がっている



のは「サシット」と呼ばれるシャンプーや洗剤などの小袋。こうした屋台販売では商品は長期間屋外環境にさらされるため、サシットには酸素や水蒸気、光に対して高いバリア機能が必要となる。そこにDNPの印刷技術が活かされた製品開発がなされ、この製品は地域の人々の日常生活を支えている。

人を大切に信頼される企業に

このように順調に経営を続けてこられた理由のひとつには、人を大切にしてきたことがあると考えている。まず社員への施策として労働環境の整備に力を入れたことが挙げられる。建物の建築に際して現地の法律に基づくことはもちろん、現地基準よりも日本国内の基準が妥当と考えればそれを優先することもある。また人を育てることを重視し研修制度を充実させ、様々な研修制度を通じて現地採用である約2400名の社員の能力開発に取り組んでいる。

社員が安心して働くには家族の協力が必要なことはどこも同じだ。そこで12年9月には創業40周年を記念して、社員および社員の家族の一体感を醸成することを目的に会社と組合が「ファミリーギャザリング2012」を開催した。当日は家族を含む総勢7668名が参加、これは招待した家族の99.2%の参加率であり、極めて驚異的な数字となった。多くの社員とその家族がDNPとの間に良好な関係を築いていることの証ともなった。



「ファミリーギャザリング」で仲間意識を育む

地域コミュニティへの参画

DNPインドネシアは近隣の人々の生活環境の向上や健全な自立に少しでも役立ちたいとの思いから様々な活動を展開している。工場周辺を流れるチタムル川では、10年に大規模な氾濫があり、その後も大雨のたびに増水を繰り返している。そのためDNPインドネシアは土壌流出を防ぐ洪水対策として植樹を行った。また、インドネシアは水道施設の整備が遅れており、飲料水や生活水が常に不足している。そのためDNPインドネシアは工場近隣の村に井戸を提供する活動を展開すると共に、村の主婦を対象に洪水による汚染が人々に与える健康問題・衛生に関するセミナーを実施した。



村の主婦への健康・衛生教育



周辺地区の子どもたちへの学習支援

DNPインドネシアが所属するカラワン工業団地自治会が行っている地域支援活動の一環として、近隣に住む小学生にノートを寄贈。これはDNPが作成したもので、児童ひとりに4冊(7000人分で計2万8000冊)を贈った。また同自治会が行っている、勉強意欲がある低収入世帯の高校生に3年間分の授業料を支援する活動に賛同し、サポートしている。

DNPインドネシアは、人を大切にする事で共感と信頼を得ながら、現地に根ざした事業や社会貢献活動を継続的に展開し、インドネシアさらには東南アジアの生活向上や社会の発展に寄与していきたいと考えている。

◆大日本印刷株のCSRへの取り組み
<http://www.dnp.co.jp/csr/>